

近年の災害から学ぶ

「天災は忘れたころにやってくる」ということわざがあるように、災害はいつどこで発生してもおかしくありません。

近年発生した土砂災害、洪水、地震災害の体験談には、災害時や災害発生が予想されるときに取るべき行動が隠されています。これらの体験談を通して、災害を自分のこととしてとらえ、いつ襲ってくるかわからない災害に備えましょう。

平成26年広島豪雨による土砂災害

平成26年8月の広島豪雨による土砂災害では、死者・行方不明者の数が74名にものぼる大災害となりました。

●体験談・記録

- 川の氾濫はあると思ったが、裏山で土砂災害が発生するとは思っていなかった。
- 生臭い、土の腐ったような臭いや、沢から岩がゴロゴロ転がる音がした。
- 「いつもと違うぞ」と思い、2階に上がったときに強烈な音と搖れ(土砂災害)が襲った。

出典:平成26年8月20日広島豪雨災害体験談集(発行:砂防学会2014年8月広島大規模土砂災害緊急調査団広島市防災ネットワーク)

◆土砂災害の前兆現象や避難方法などは4ページへ!▶▶▶



写真:国土地理院



写真:国土交通省資料より

平成27年関東・東北豪雨による鬼怒川洪水

平成27年9月の関東・東北豪雨による鬼怒川の決壊・洪水では、茨城県常総市を中心に死者2名、負傷者40名以上、全半壊家屋5,000棟以上という甚大な被害が発生しました。

●体験談・記録

- 過去のはん濫の経験から「ここまで水が来なかつたら大丈夫」と思った。
- 自主防災組織の活動や地域のコミュニケーションが日ごろから取れている地域では、声掛けが比較的早く行われたり、いち早く情報共有が行われた。

出典:平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書 - わがことして災害に備えるために - (発行:常総市)

◆洪水の仕組みや近年の降雨の特徴は3ページへ!▶▶▶



写真:朝日航洋株式会社



写真:朝日航洋株式会社

熊本地震

平成28年の熊本地震では熊本県や大分県を中心に死者161名、重軽傷者2,000名以上、住宅被害10万棟以上という甚大な被害が発生しました。

●体験談・記録

- 車中泊をする方が多かったため、エコノミークラス症候群の発生があった。
- 震度7の揺れが連続して発生したため、2回目の地震で家屋倒壊に至ったケースがあった。
- 地震ハザードマップは実際の現象を概ね表現できていたが、一般市民へ浸透していなかった。

出典:熊本地震灾害レポート (発行:建設コンサルタント協会)

◆地震時の心得は9ページへ!▶▶▶



写真:国土交通省資料より



写真:国土交通省資料より

自助・共助・公助

災害から身を守るために、「自分たちの命は自分たちで守る」という自主防災の気持ちが大切です。日ごろから地域のコミュニティを大切にし、いざという時に助け合うことでのける地域づくりを進めましょう。

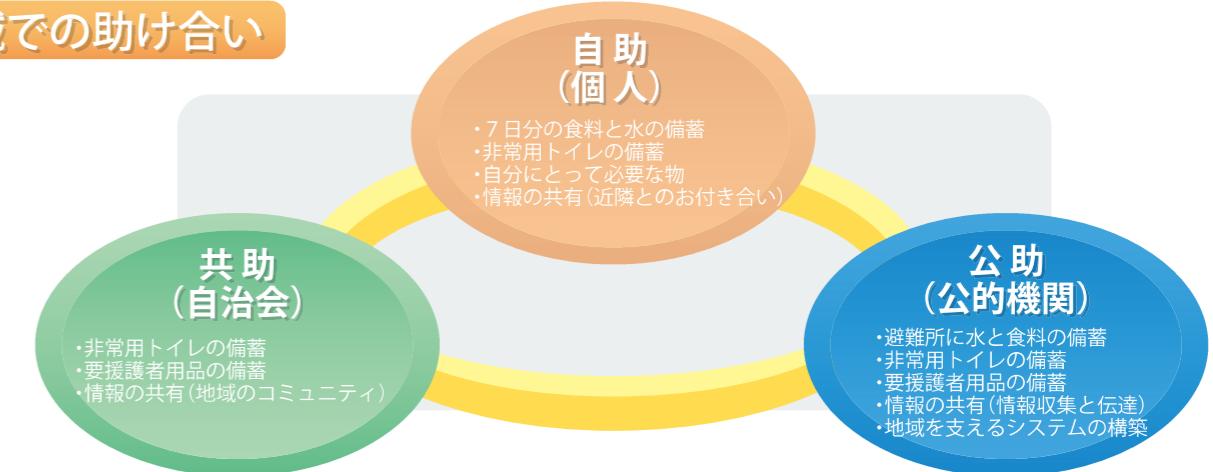
一発災から最低3日間は自助と共助で乗り越える

地域を守るのは、地域です。

地域で助け合いながら、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方を持って、自主的に災害による被害を予防・軽減するための活動をする組織が自治会(自主防災会)です。

大規模な災害が発生すると、国や県、町の支援(公助)だけでは十分な対応ができません。そこで、自分自身の身を自分の努力で守ること(自助)、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むこと(共助)が大切になります。災害時などの「いざ」というときに助け合える「安心して暮らせる町」にするため、是非自治会(自主防災会)へご加入ください。

地域での助け合い



避難行動要支援者の支援

お年寄りや障がいのある方、妊産婦の方等は、災害時に一人で避難することは避け、家族や近所の人と一緒に避難するようになります。日ごろから自治会(自主防災会)の活動などを通じて、地域でのコミュニケーションをはかっておくことが大切です。避難行動要支援者(一人暮らしや寝たきり高齢者、障がい者等自ら避難することが困難で支援が必要とする方)を町が把握・名簿を作成し、災害時には避難支援等関係者(自治会・警察・消防等)へ情報提供をさせていただきます。

しかし、日ごろから避難支援等関係者へ名簿の情報を提供し、地域で支援体制を築くためには、情報提供への本人の同意が必要となります。町がご案内を差し上げた際にはご協力をお願いいたします。



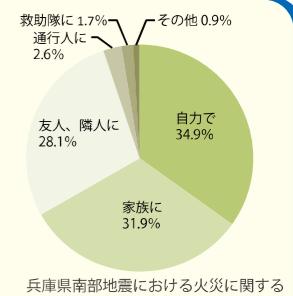
地域の絆で人命救助

平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、生き埋めや建築物などに閉じ込められた人のうち、救出された約95パーセントの方は、自力または家族や隣人などに助けられました(右の円グラフのとおり)。



倒壊家屋からの救出訓練
(中井町防災リーダー研修会)

また、平成26年11月22日に発生した長野県北部を震源とする最大震度6弱の地震では、長野県小谷村や白馬村などで46名がけがをし、141棟の住宅が全半壊する被害が出ましたが、地域住民や消防団が、警察や消防本部による活動を待たずに救助活動や高齢者の避難を支援しました。住民たちは普段から隣近所での付き合いがあり、それぞれの住宅の家族構成などを把握していたことから、スムーズな救出ができ、大規模な災害の中でも犠牲者は1人もいませんでした。



兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書 (日本火災学会より)